



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国における日本語専攻学習者の動機減退構造：社会・教育環境との関連から [全文の要約]
Author(s)	許, 晴
Description	この博士論文全文の閲覧方法については、以下のサイトをご参照ください。 https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(学術)
Dissertation Number	甲第13628号
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74406
Type	doctoral thesis
File Information	Xu_Qing_summary.pdf



平成 30 年度博士論文 要約

中国における日本語専攻学習者の動機減退構造

－社会・教育環境との関連から－

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院

国際広報メディア専攻

許 晴

中国における日本語専攻学習者の動機減退構造
-社会・教育環境との関連から-

第1章 研究背景	1
1.1 中国の行政区と戸籍制度	1
1.1.1 中国における行政区画	2
1.1.2 中国における地域間、農村・都市間経済格差の存在	5
1.1.3 戸籍制度の由来と現状	6
1.1.4 戸籍制度と教育の関係及びその問題点	8
1.2 中国における高等教育の発展及び分類	10
1.2.1 「改革・開放」政策実施以来の中国高等教育の発展	10
1.2.2 中国一流・重点大学の創建政策	14
1.3 教育の地域格差	17
1.3.1 教育社会学の視点から見る中国における教育機会の地域格差	17
1.3.1.1 高等教育機会と大学進学率	18
1.3.1.2 高等教育機会と社会階層	20
1.3.2 教育社会学の視点から見る中国における高等教育発展水準の地域格差	21
1.3.2.1 東部・中部・西部地域の教育資源配分の不均衡性	21
1.3.2.2 省別の教育発展レベルの格差	23
1.4 中国の大学入試制度	25
1.4.1 大学入試制度の概要	25
1.4.2 専攻「振り分け」の可能性	27
1.4.3 中国入試制度の問題点	29
1.4.3.1 統一入試の可否における地域間不公平現象の存在	29
1.4.3.2 大学の入学定員を各省に配分する方式による地域格差	29
1.5 中国における日本語教育の発展と現状	30
1.5.1 中国における日本語教育の発展（2006年-2015年）と世界での位置づけ	30
1.5.2 中国における日本語教育段階別の特徴（2015年）	31
1.5.3 高等教育段階における4年制大学日本語学科の発展	32
1.5.4 中国における日本語専攻者数の減少と段階別割合の変化	33
1.6 本研究の研究対象とその特徴	34

1. 6. 1 研究対象	34
1. 6. 2 中国における日本語専攻学習者の特徴	34
1. 6. 2. 1 授業時間数と学習負担	35
1. 6. 2. 2 教育目標の相違	37
1. 6. 2. 3 義務づけられた日本語学習	38
1. 6. 2. 4 目標言語と接触チャンスの少なさ	38
第 2 章 先行研究	39
2. 1 概念の定義	39
2. 1. 1 「動機づけ」概念の定義	39
2. 1. 2 「動機減退」概念の定義	41
2. 2 動機減退研究の位置づけと理論的枠組み	43
2. 2. 1 統合的・道具的動機づけ	44
2. 2. 2 内発的・外発的動機づけ	45
2. 3 先行研究	46
2. 3. 1 第二言語習得 (SLA) における動機減退研究	47
2. 3. 1. 1 第二言語習得研究 (SLA) における研究対象別の動機減退研究の特徴	65
2. 3. 1. 2 第二言語習得研究 (SLA) における研究目的別の動機減退研究の特徴	67
2. 3. 1. 3 第二言語習得研究 (SLA) における研究方法別の動機減退研究の特徴	71
2. 3. 1. 4 第二言語習得研究 (SLA) における動機減退研究の結果分析	77
2. 3. 1. 4. 1 東アジア文化圏における動機減退研究の結果分析	79
2. 3. 1. 4. 2 東南アジア文化圏における動機減退研究の結果分析	83
2. 3. 1. 4. 3 西アジア文化圏における動機減退研究の結果分析	83
2. 3. 2 日本語教育における動機減退研究	86
2. 3. 2. 1 瀬尾・陳・司徒 (2012)	87
2. 3. 2. 2 中井 (2009)	88
2. 3. 2. 3 Hamada & Grafström (2014)	90
2. 3. 3 中国人日本語専攻学習者の学習動機と動機減退に関する先行研究	91
2. 3. 3. 1 中国人日本語専攻学習者の学習動機に関する先行研究	92
2. 3. 3. 2 中国人日本語専攻学習者の動機減退に関する先行研究	99
2. 4 先行研究のまとめとその問題点	100
2. 4. 1 中国の日本語専攻学習者を対象とする動機減退研究の必要性和その欠如	102

2.4.2 社会・教育的環境と動機減退の関連づけの少なさ	103
2.5 出身地と入学制度からの中国人学習者の動機減退研究の必要性	104
第3章 研究目的	106
第4章 研究方法	107
4.1 質問紙の作成	108
4.1.1 質問紙の作成方法：半構造化インタビューによる項目の収集	108
4.1.2 データの分析方法：M-GTA	110
4.1.3 インタビューデータの分析結果	111
4.1.4 予備調査質問紙の作成	114
4.2 予備調査による質問紙尺度の信頼性の確認と本調査質問紙の作成	115
4.3 本調査 A・B・C の調査概要	118
第5章 [研究1] 中国における日本語専攻学習者の動機減退要因の再検討	119
5.1 研究目的	119
5.2 分析方法と結果	120
5.3 考察	123
5.3.1 第二言語習得研究分野の研究結果との比較	123
5.3.2 中国人学習者対象の研究との比較	126
5.4 教育的示唆	127
5.4.1 学習者の内面への支援の必要性	127
5.4.2 大学入試制度上の問題の動機減退への働き の注目	128
5.5 本研究のまとめ	128
第6章 [研究2] 中国における日本語専攻学習者の出身地と動機減退の関連	130
6.1 研究目的	130
6.2 用語の定義-出身地の定義	131
6.3 出身地の県間比較の比較基準	131
6.4 研究方法	132
6.5 データの分析	133
6.6 インタビュー調査の結果	134
6.6.1 「出身地から生じる劣等感」	134
6.6.2 「出身地から生じる優越感」	135

6.7 質問紙調査の結果.....	136
6.7.1 上海市の大学における県間比較.....	136
6.7.2 上海市の大学における戸籍間比較.....	137
6.7.3 湖南省の大学における県間比較.....	138
6.7.4 湖南省の大学における戸籍間比較.....	138
6.8 考察.....	139
6.8.1 インタビュー調査に関する考察.....	139
6.8.2 質問紙調査に関する考察.....	140
6.8.2.1 県間比較に関する考察.....	140
6.8.2.2 戸籍間比較に関する考察.....	141
6.9 教育的示唆.....	141
6.9.1 教師による出身地の動機減退への影響の意識化の必要性.....	141
6.9.2 地方出身者の環境適応へのサポート.....	141
6.9.3 農村・都市出身によるビリーフの異なりへの注目.....	142
第7章 [研究3] 専攻の振り分けによる日本語専攻学習者の動機減退要因の比較.....	143
7.1 研究目的.....	143
7.2 調査の基本状況.....	143
7.3 分析方法.....	145
7.4 分析結果.....	145
7.4.1 日本語専攻志望群は非志望群より動機減退の比率が低いのか.....	145
7.4.2 日本語志望群と日本語非志望群の t 検定の結果.....	146
7.4.3 日本語専攻非志望群と志望群別の因子構造.....	147
7.4.3.1 日本語専攻非志望群の動機減退の因子構造.....	147
7.4.3.2 日本語専攻志望群の動機減退の因子構造.....	149
7.5 考察.....	151
7.5.1 日本語非志望群の因子構造に関する考察.....	151
7.5.2 日本語志望群の因子構造に関する考察.....	152
7.5.3 日本語志望群と非志望群の相違点.....	153
7.5.3.1 日本語非志望群の「教師」の作用の重視.....	153
7.5.3.2 日本語非志望群の「言語学習資質」への懷疑.....	154
7.5.3.3 日本語非志望群の「進路選択上の日本語の重要性の低下」.....	154

7.5.3.4 日本語志望群の「専攻選択上の問題」	154
7.5.3.5 「実用性と有能感」の有意差.....	154
7.5.4 日本語志望群と非志望群の類似点.....	155
7.5.4.1 内的要因からの影響の強さ.....	155
7.5.4.2 <日本語学習上の困難>の共通性.....	155
7.5.4.3 実用性への追求.....	156
7.5.4.4 自信と興味の喪失.....	156
7.5.4.5 自己満足の傾向.....	156
7.6 中国の入試制度と動機減退.....	157
7.6.1 日本語専攻非志望群の動機減退と入試制度	157
7.6.2 日本語専攻志望群の動機減退と入試制度.....	157
7.7 教育的示唆.....	157
第8章 結論と総合考察.....	159
8.1 本研究の要約.....	159
8.2 総合考察	162
8.2.1 中国における日本語専攻学習者の動機減退の特性.....	162
8.2.2 社会文脈要因による学習者の多様化.....	163
8.2.3 中国における動機減退の多様性	167
8.3 本研究の意義.....	169
8.3.1 動機減退の観点から動的な動機づけを見つめ直す	169
8.3.2 動機減退の「社会性」の再検討	169
8.4 本研究の限界と課題.....	170
謝 辞.....	172
参考文献	174
付録：本研究の質問紙.....	185
(1) インタビュー調査の質問紙.....	185
(2) 予備調査の質問紙（中国語版）	186
(3) 予備調査の質問紙（日本語版）	192
(4) 本調査の質問紙（中国語版）	198
(5) 本調査の質問紙（日本語版）	204

学位論文内容

本研究は、中国における日本語専攻学習者を対象に、教育・社会環境、大学入試制度の視点を入れながら、日本語学習の動機減退という現象に注目するものである。具体的には以下のような3つの観点から検討する。(1) 学習者全体の動機減退要因の構造、(2) 中国における教育発展の地域格差が大きいという教育・社会環境を考慮し、学習動機に影響すると推測される特別的要因「学習者の出身地」と動機減退の関連、(3) 学習動機の強弱を左右する可能性のある「専攻の振り分け」という大学入試制度による学習者の動機減退要因の相違である。

本研究の研究成果は、中国における日本語専攻学習者の動機減退構造について、教育・社会環境の視点を入れ、明らかにしたことである。

まず、本研究で解明した中国日本語専攻学習者の動機減退要因は、学習場面における「内発的動機づけと学習能力の欠如」、「日本語学習困難」、「運用能力と達成感の不足」、「教師」という学習文脈要因と社会文脈の影響を受けた「専攻選択上の問題」と「学習者出身地の地域格差」という社会文脈要因に分類することができる。

[研究1]では、学習者全体の動機減退の構造として、5因子が抽出された。そのうち、4つの因子は学習文脈要因であり、「専攻選択上の問題」のみが社会文脈要因である。すなわち、学習者の動機減退要因の多くは学習文脈要因である。また、内的要因と外的要因の枠組みから分析すると、内的要因は62.06%の比率であり、内的要因の方が学習者の動機減退との関わりがより強いと考えられる。

そして、社会文脈要因である「専攻選択上の問題」と「学習者出身地の地域格差」は変えられないものであるとは言え、決して無視すべきものではない要因であると思われる。[研究2]では、出身地は一つの動機減退要因としての可能性を提示した。一部の学習者にとって、出身地という生まれもった社会属性は学習動機の変化の中で働いている。[研究3]では、日本語専攻に振り分けられたかどうかを基準に、学習者を「日本語志望群」と「日本語非志望群」に分けた。2群は異なる動機減退要因構造を呈していることを明らかにした。

つまり、中国日本語専攻学習者の動機減退要因の特性は、学習文脈要因のみならず、社会文脈要因も動機減退と強く関連があり、無視できない存在である。また、中国日本語専攻学習者は、出身地という社会属性と専攻の振り分けという入試制度のような教育的文脈の中で動機減退が起こっている。

総合考察では、「中国における日本語専攻学習者の動機減退の特性」のみならず、「社会文脈要因による学習者の多様化」と「中国における動機減退の多様性」の視点からも総合考察を行った。学習者はそれぞれ異なる社会的属性を持ち、これらの属性が組み合わされて、教育・社会環境の

中で、学習者の多様化が生まれたと考えられる。

また、学習者の動機減退は教育・社会的文脈、学習文脈の両方の中で起きている。教育・社会的文脈という大きな環境があり、学習文脈は教育・社会的文脈の中にある。教育・社会的文脈の要因はすべて学習文脈に直接に影響するという構造になっている。動機減退の多様性は動機減退要因種類の多様性のみならず、動機減退要因の組み合わせの多様性や強さの多様性という 3 重の多様性を持ち、この多様性構造は「教育・社会環境」と「動機減退」の両方から動的に捉えなければならない。さらに、[研究 1] から、中国の日本語専攻学習者の動機減退要因の多くは内的要因であると言える。しかし、内的要因であっても、動機減退は社会環境の中に埋め込まれているため、単純に内的要因と理解してよいかどうかは慎重に検討しなければならない。つまり、内的要因の背後にある学習者の言語学習適性など個人的特性からの影響や教育・社会環境からの影響の可能性もある。

各章の内容は以下の通りである。

第 1 章

第 1 章では、本研究の社会的・教育的背景を述べた。社会的背景として、中国の行政区と戸籍制度に関する基礎的概念を整理した。教育的背景では、中国の高等教育の発展と分類を提示し、教育社会学の視点から、中国における教育機会の地域格差と高等教育発展水準の地域格差を議論した。また、専攻の「振り分け」に重点を置いて、大学入試制度を述べた。最後に、中国における日本語教育の発展と現状と日本語専攻学習者の特徴を提示した。

戸籍制度は 50 年代末～60 年代初頭に完成した中国独特の制度である（張 2004）。中国社会において、都市・農村二重社会構造が基本であり、戸籍制度は教育二重構造を含める都市・農村二重構造制度の基礎である（褚 2015）。一般的に、戸籍制度の主な機能は人口登録・人口統計と管理であるが、中国では、工業化を促進するため、戸籍制度は公民の自由移動を制限するのみならず、食糧配給制度、教育制度、医療保険制度、就職制度などの福利厚生も関係づけられている（王 2014b）。したがって、中国における戸籍制度は戸籍管理と関連のある一連の政治・経済・法律制度であると理解できる（方・蔣 2012）。

戸籍制度により、農村・都市間の利益固定化問題が生じたと思われる。教育資源配分と社会身分不平等を孕んでいる戸籍制度について、史（2008）では、3 つの問題点が挙げられた。それぞれは、農村・都市教育資源配分の不平等、戸籍制度下流動人口子女教育の不平等、合格資格ラインの不平等である。

中国では、日本と異なり、大学や専攻ごとに入試が分かれておらず、一回の「高考」で進学先

が決まる（孫・藤井・石川 2013）。また、このような大学入試制度の一つ大きな特徴としては、省別に入学選抜が行われていることである。1990 年代まで、試験問題は全国共通であったが、現在では、省ごとに試験問題も作題している（小川・小野寺 2016）。このような特徴は次の 2 つのことを含意している（南部 2005）。一つは、受験者が大学進学を希望した時、どの大学、どの専攻でも選ぶことができるわけではなく、あくまでも当該省に定員が割り振られた専攻しか志望できないということである。ある大学のある専攻にどんなに行きたくても、受験する時にその専攻の募集定員が所在省に割り振られなければ進学することができない。もう一つはその定員をめぐっての競争はあくまでも当該省の中だけで完結しているということである。ある大学のある専攻の募集定員が複数の省に割りふられていたとしても、ある省における募集定員は基本的にその省の受験者で満たされるので、ほかの省の受験者と同じ土俵に立つことはない。このように、受験者は受験所在地の省の受験者としてしか競争関係にならないため、省によって、合格資格ラインが異なることは十分あり得る。

2015 年の中国における高等教育段階の学習者数は全体の 65.6%を占める 625,728 名（国際交流基金 2017b）であり、世界における高等教育段階学習者数の割合の平均値 28.5%より 37.1%高い。中国において、高等教育段階の学習者は圧倒的に多いことが特徴である（国際交流基金 2015, 2017b）。本研究では、このような全体に占める比率の最も高い高等教育段階の学習者に着目する。その中で、特に彼らの将来、キャリアと最も関わる可能性の高い日本語専攻学習者を研究対象とする。

第 2 章

第2章では、先行研究のレビューを行った。まず、本研究における「動機づけ」と「動機減退」という中心的概念の定義を行った。本研究では、廣森(2010)は「動機づけ」に対する定義を採用し、行動の目標や目的(質的側面)を規定するに加え、実際の行動の強さ(量的側面)を規定するものであると定義する。動機減退を「外的要因と内的要因の両方の働きによって、行動の意図と進行中の行動に対して、動機づけが削減されることである」と定義する。

次に、動機減退研究が動機づけ研究の位置づけを示し、よく使用される動機づけの理論的枠組み「統合的・道具的動機づけ」理論と「内発的・外発的動機づけ」理論について、説明した。

そして、先行研究のレビューでは、第二言語習得分野における動機減退に関する代表的な先行研究 22 本を詳細にレビューした上で、研究対象別、研究目的別、研究方法別にまとめ、国別、文化圏別に研究結果を分析した。第二言語習得分野以外に、日本語教育分野における動機減退の研究 3 本と、中国人日本語専攻学習者を研究対象とした学習動機と動機減退の研究をレビューし、

研究結果をまとめた。

最後に、中国における日本語専攻学習者を対象とする「動機減退研究の必要性和欠如」、「社会・教育的環境と動機減退の関連づけの少なさ」という2点から先行研究の問題点を指摘した。

第3章

第3章では、本研究の目的を述べた。3つのリサーチクエスションは、(1)中国における日本語専攻学習者の動機減退要因は何か。(2)教育や経済発展の格差の大きい中国では、教育と経済の発展を反映する学習者の出身地が動機減退と関連するか、また、どのように関連しているか。(3)中国の独特の大学入学制度の中で、「専攻の振り分け」により、学習者の動機減退要因の構造は異なるかである。

第4章

第4章は、以上の3つのリサーチクエスションを念頭に置き、研究方法を詳述した。半構造化インタビューから、ボトムアップ方式による質問紙の作成過程について述べた。

本研究では、質問紙作成のために、半構造化インタビューを用い、オリジナルなデータを収集した。インタビューは2014年7月から12月に、9名の学習者(男性4人、女性5人)を対象に、1名1回、中国語で個別にインターネットを介して、半構造化インタビューを行い、録音した。M-GTAでインタビューデータを分析した結果、81概念が生成された。

以上の81概念から、質問項目を決定する際、各カテゴリーのバランスを考慮した上で、インタビューの対象となった9名の学習者のうち、多くの学習者の動機減退要因となった要因を選定し、35項目の予備調査質問紙を作成した。

半構造化インタビューを通じて、従来の動機減退研究に見られなかった学習者の出身地と入学制度に関する要因が新しく発見できた。作成した質問紙を使用し、予備調査、本調査A、B、Cを実施した。

第5章

第5章では、ボトムアップ的に作成したオリジナルな動機減退質問紙を用い、日本語専攻学習者1年生から4年生を対象に、動機減退要因構造を再検討することを目的とする。

動機減退要因構造を再検討する必要があると思われる理由は先行研究である楊(2016)は調査時期

の制限により、1年生～3年生のみを研究対象とし、4年生は調査対象から除外された。4年生は大学4年間に渡り、動機の変動や減退を最も経験をする可能性の高い学年だと考えられ、除外されたことは全体の結果に影響する可能性があると予想される。また、高（2016）は、単一大学の学習者のみを調査対象にしていたため、調査結果は調査対象校の事情や地域日本語教育の発展状況に左右される可能性があると考えられる。

両研究の結果から分析すると、因子の内容は大きく異なりがあるのみならず、内的要因と外的要因の観点から分析しても、内的要因と外的要因どちらの影響が強いかに関しても、結論が異なる。

本研究では、予備調査を経て、質問紙調査の結果を分析した結果、次のようなことが明らかになった。まず、日本語専攻学習者の動機減退要因構造として、5因子が抽出された。それぞれは、「内発的動機づけと学習能力の欠如」、「日本語学習困難」、「運用能力と達成感の不足」、「教師」、「専攻選択上の問題」である。動機減退要因としては、「内的要因」が主要な要因である。そして、「専攻選択上の問題」という要因は先行研究に見られない特別な要因である。

高（2016）、楊（2016）と比較した結果、[研究1]の研究結果は楊（2016）との類似性が高く、高（2016）との相違点が多いことが明らかになった。

第6章

第6章では、教育と経済の発展を反映する学習者の出身地が動機減退と関連するかについて検討した。本研究では、学校所在地の「地域間格差」のみならず、学習者の出身地の「地域間格差」と「地域内格差」も視野に入れるという独自の視点から、出身地と動機減退の関連について、研究を進めた。

中国では、学習者の出身地の「地域間格差」と「地域内格差」を反映するのは、出身県と戸籍所在地である。そのため、本研究における「出身地」は出身県と戸籍所在地という2つの側面を含む。

インタビューのデータを分析した結果、出身地が動機減退の一つの要因として作用する可能性を提示した。質問紙調査のデータを分析した結果、大学所在地の教育発展指数により、学習者の出身地と動機減退要因の関連性の強さと内容は異なる。上海市の大学では、学習者出身地の県間差異は戸籍間差異より動機減退との関連が強い。一方、湖南省の大学では、学習者出身地の戸籍間差異は県間差異より動機減退との関連が強い。そして、県間差異に関しては、上海市の大学に在籍する学習者は湖南省の大学に在籍する学習者より、動機減退との関連が強いなどの結論が得られた。

第7章

第7章では、「専攻の振り分け」により、学習者を日本語志望群と日本語非志望群に分類し、それぞれの動機減退因子を明らかにした上で、入学制度と動機減退要因の考察を行った。

調査した結果、日本語志望群と日本語非志望群の動機減退要因の構造は異なる。日本語非志望群の動機減退要因には、「日本語学習資質の不足」、「有能感の不足」、「予想外の教室内学習の苦しさ」、「学習量による学習困難」、「進路選択上の日本語の重要性の低下」という5因子からなる。日本語非志望群は教師に依存する傾向があり、努力して勉強しようとする姿勢が窺えるが、言語学習のレディネスができていない中で、努力はしているものの、学習成果が伴わず、動機が減退していることが窺える。日本語志望群の動機減退要因には「成績と運用能力への落差感」、「授業テンポの速さによる学習困難」、「自信と興味の喪失」、「専攻選択上の問題」、「学習への非強制欲求」の5因子である。日本語志望群であっても、必ずしも動機が減退しないとは限らない。

日本語志望群と非志望群の相違点は「日本語非志望群の＜教師の作用の重視＞」、「日本語非志望群の言語学習資質への懷疑」、「日本語非志望群の＜進路選択上の日本語の重要性の低下＞」、「日本語志望群の＜専攻選択上の問題＞」、「実用性と有能感の有意差」であり、類似点は「内的要因からの影響の強さ」、「＜日本語学習上の困難＞の共通性」、「実用性への追求」、「自己満足の傾向」である。

第8章

第8章では、本研究の結論を述べ上で、総合考察を行った。特に、中国における日本語専攻学習者の動機減退の特性、社会文脈要因による学習者の多様化、中国における動機減退の多様性という3つの側面から、考察を行った。

本研究で明らかにした中国日本語専攻学習者の動機減退要因は、学習場面における「内発的動機づけと学習能力の欠如」、「日本語学習困難」、「運用能力と達成感の不足」、「教師」という学習文脈要因と社会文脈の影響を受けた「専攻選択上の問題」と「学習者出身地の地域格差」という社会文脈要因に分類することができる。他には、親の職業と社会的地位、家族の経済状況、民族属性など本研究で検証されなかった社会文脈要因があると予想されるが、本研究で検証した社会文脈的要因によって、学習者の多様性を12タイプに分けて提示し、社会文脈要因による学習者の多様化を示した。

本研究の意義としては、動機減退の観点からの動的な動機付けを見つめ直す、動機減退の「社

会性」の再検討にある。

本研究では、中国日本語専攻学習者の動機減退に焦点を当てたことは、動機づけを一時的なものではなく、長期間で変化するものであるとして捉える。動機づけのマイナス的な変化に注目し、変化の理由や社会的文脈と関連づけた研究は必要、かつ、有意義であると考えられる。

「社会性」について、「地域の社会性」、「学習者の社会性」という2つの側面を持っていると考える。今までの先行研究では、「社会的文脈」は主に国を指していた。「国」という社会的文脈の中で、動機づけの検討がなされていた。本研究で言う「地域の社会性」は、特定の「国」ではなく、ある国の中の異なる地域の間がそれぞれの社会的文脈を持つことを指す。

最後に、今後の課題を述べた。本研究は学習者の全体的な動機減退要因と社会・教育的環境と動機減退要因の関連に重点を置いた。今後の課題として、他の社会的要因も取り入れ、多面的、総合的に分析することが必要であり、学習適性、学習観など学習者の個人特性がどのように動機減退に関連するかも検討する必要がある。

参考文献

- 秋田隆裕・川村和美(2001)「中国の地域所得格差」『環日本海経済研究所 Erina report』40, pp. 45-54.
- Allan, D. (2004). *Oxford Placement Test 2: Test Pack*. Oxford University Press.
- 荒井貴和(2004)「何が外国語学習者のやる気を失わせるか -動機減退の原因とそれに対する学習者の反応に関する質的調査-」『東洋学園大学紀要』12, pp. 39-47.
- Agawa, T., & Ueda, M. (2013). How Japanese students perceive demotivation toward English study and overcome such feelings. *Japan Association of College English Teachers journal*, 56, 1-18.
- Brown, H. D. (2000). *Principles of language learning and teaching*. Longman.
- 別敦栄(2005)「第3章 高等教育の大衆化」黄福涛(編)『1990年代以降の中国高等教育の改革と課題高等教育研究叢書』81, 広島大学高等教育研究開発センター pp. 25-33.
- 白雪洁・房伟(2010)「中国义务教育效率的省际差异及投入拥挤研究」『当代财经』3, pp. 32-39.
- 毕宪顺・张峰(2014)「改革开放以来中国高等教育的跨越式发展及其战略意义」『教育研究』11, pp. 62-71.
- 陈国阶(1995)「我国东西部发展不平衡与西部开发」『科技导报』7, pp. 36-37.
- Chang, S. M., & Cho, C.H. (2003). Demotivating Factors in Foreign Language Learning. *Selected Papers from the Twelfth International Symposium on English Teaching*. Taipei: Crane Publishing, 257-264.
- 張英莉(2004)「新中国の戸籍管理制度(上) -戸籍管理制度の成立過程-」『埼玉学園大学紀

- 要』 4, pp. 19-32.
- 陈映芳 (2005) 「“农民工”：制度安排与身份认同」『社会学研究』 3, pp. 119-132.
- 陳学飛・張蔚萌 (2005) 「第 2 章 中国における世界一流大学の創建に関する政策策定プロセス」
- 黄福涛 (編) 『1990 年代以降の中国高等教育の改革と課題 高等教育研究叢書』 81, 広島大学
高等教育研究開発センター pp. 17-24.
- 陈冬云 (2006) 「大学生自卑心理探析」『山西科技』 1, pp. 76-77.
- 張忠任 (2007) 「<特集 中国地方自治研究> 中国における地方行政改革と地方自治の進展と意義」
『北東アジア研究』 13, pp. 1-16.
- 千葉朋美 (2012) 「日本の大学で学ぶ中国人日本語学習者の動機づけと自律性 -自己決定理論の視
点による探索的研究-」『2012 年度日本語教育学会春季大会予稿集』 pp. 85-90.
- 崔玉平・武晓晗 (2013) 「我国初中教育投入与产出省际差异的量化分析」『教育与经济』 1, pp. 42-47.
- 崔美玉 (2014) 「浅谈日语教学中动机的激发」『北方文学 中旬刊』 1, p. 244.
- 褚宏启 (2009) 「城乡教育一体化：体系重构与制度创新 -中国教育二元结构及其破解-」『教育研究』
358 (11), pp. 3-10.
- 褚宏启 (2015) 「城镇化进程中的户籍制度改革与教育机会均等 -如何深化异地中考和异地高考改
革-」『清华大学教育研究』 36 (6), pp. 9-16.
- Cankaya, P. (2018). Demotivation Factors in Foreign Language Learning. *Journal of Foreign Language
Education and Technology*, 3(1), 1-17.
- Deci, E.L., & Ryan, R.M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. Now
York: Pleum
- Dörnyei, Z. (1998). Demotivation in foreigner language learning. *Paper presented at the TESOL '98
Congress*, Seattle, WA March.
- Dörnyei, Z. (2001). *Teaching and researching Motivation*. Longman: Pearson Education.
- Dörnyei, Z. (2006) 『外国語教育学のための質問紙調査入門 作成・実施・データ処理』 八島智子・
竹内理 訳, 松柏社
- 丁小浩 (2006) 「规模扩大与高等教育入学机会均等化」『北京大学教育评论』 4 (2), pp. 24-33.
- Dörnyei, Z. (2010). *The psychology of the Language Learner Individual Differences in Second Language
Acquisition*. Routledge
- Dörnyei, Z. & Ushioda, E. (2011). *Teaching and Researching: Motivation Second edition*. Longman: Pearson
Education.
- 丁非凡・任训学 (2012) 「关于高考户籍制度的改革及建议」『湖北招生考试』 2, pp. 19-21.

- Falout, J., & Maruyama, M. (2004). A comparative study of proficiency and learner demotivation. *The Language Teacher*, 28(8), 3-10.
- 樊明成 (2008) 「我国高等教育入学机会的城乡差异研究」 『教育科学』 24(1), pp. 63-67.
- Falout, J., Elwood, J., & Hood, M. (2009). Demotivation: Affective states and learning outcomes. *System*, 37(3), 403-417.
- Falout, J. (2012). Coping with Demotivation: EFL Learners' Remotivation Processes. *Teaching English as a Second or Foreign Language*, 16(3), 1-29.
- 方长春・蒋萌 (2012) 「户籍制度下的教育不平等研究综述」 『贵州社会科学』 273(9), pp. 15-97.
- Gardner, R.C., & Lambert, W.E. (1972). *Attitudes and motivation in second language learning*. Newbury House, Rowley, MA
- Gorham, J., & Millette, D.M. (1997). A comparative analysis of teacher and student perceptions of sources of motivation and demotivation in college classes. *Communication Education*, 46(4), 245-261.
- 厳善平 (2003) 「中国における経済格差の実態と要因」 『桃山学院大学経済経営論集』 44(4), pp. 27-48.
- 高一虹・程英・赵媛・周燕 (2003) 「英语学习动机类型与动机强度的关系——对大学本科生的定量考察」 『外语研究』 77(1), pp. 60-64.
- Ghadirzadeh, R., Hashtroudi, F. P., & Shokri, O. (2012). Demotivating factors for English language learning among university students. *Journal of Social Sciences*, 8(2), 189-195.
- 葛茜 (2015) 「中国の大学日本語専攻教育における教育理念の意味づけと問題点——言語教育政策の分析を中心に——」 『日本研究教育年報』 19, pp. 1-18.
- Gao, L. X., & Liu, H. G. (2016). A comparative empirical Research on English Learning demotivators between Urban and Rural. *International Conference on Social Science and Development (ICSSD)*.
- 高荣聪 (2016) 「日语专业大学生日语学习负动机影响因素研究」 『科教文汇』 25, pp. 179-182.
- 黄家泉・邵国良・罗海丰・吴开俊 (2000) 「我国地区经济发展不平衡对教育的影响」 『广州大学学报 (综合版)』 39(2), pp. 1-9, 18.
- Hasegawa, A. (2004). Student demotivation in the foreign language classroom. *Takushoku Language Studies*, 107, 119-136.
- 日置史郎 (2004) 「中国の地域格差と沿海地域から内陸地域への浸透効果: 地域間産業連関分析による一考察」 『比較経済体制学会学報』 41(1), pp. 27-38.
- 廣森友人 (2005) 「外国語学習者の動機づけを高める3つの要因——全体傾向と個人差の観点から——」 『JACET bulletin』 41, pp. 37-50.
- Hamada, Y. (2008). Demotivators for Japanese Teenagers. *Journal of the Pan-Pacific Association of*

Applied Linguistics, 12(2), 1-23.

廣森友人(2010)「第三章 動機づけ研究の観点から見た効果的な英語指導法」小嶋英夫・尾関直子・廣森友人(編)『英語教育学大系 第六巻 成長する英語学習者』大修館書店 p. 47.

Hu, R. J. S. (2011). The Relationship between Demotivation and EFL Learners' English Language Proficiency. *English Language Teaching*, 4(4), 88-96.

Hamada, Y. (2011). Different Demotivators for Japanese Junior High and High School Learners. *Journal of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, 15(1), 15-38.

賀新全・常桐善(2012)「影响硕士研究生英语学习因素的实证研究」『外语教学』33(3), pp. 68-71.

侯力(2014)「户籍制度改革的新突破与新课题」『人口学刊』208(36), pp. 22-29.

Hamada, Y. & Grafström, B. (2014). Demotivating factors in learning Japanese as a foreign language. 『秋田大学教養基礎教育研究年報』16, pp. 9-18.

廣森友人(2015)『英語学習のメカニズム 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』大修館書店

Hosseinpour, N. H., & Tabrizi, H. H. (2016). University Students' Perception of Demotivating Factors in Learning English as a Foreign Language. *The Journal of Applied Linguistics*, 6(13), 84-104.

岩井八郎・片岡栄美・志水宏吉(1987)「『階層と教育』研究の動向」『教育社会学研究』42, pp. 106-134.

磯田貴道(2005)「学習意欲や動機づけに関する概念の整理へ向けて」『広島外国語教育研究』8, pp. 85-96.

蒋庆荣(2006)「关于日语专业学生日语学习动机的调查分析」『常州工学院学报』24(6), pp. 117-120.

蒋莉莉・赵宏斌(2008)「我国地方普通高等教育财政省际差异分析」『教育财政研究』23, pp. 58-63.

蒋庆荣(2010)「日语动机实证研究」『淮海工学院学报(社会科学版)』8(1), pp. 4-7.

金京沢(2011)「中国における大学入学：化学を中心に(諸外国では大学への入学を許可するためにどのような制度を設けているか その5)」『化学と教育』pp. 44-47.

木村宗男(1982)『日本語教授法 -研究と実践-』凡人社

郭俊海・大北葉子(2001)「シンガポール華人大学生の日本語学習の動機づけについて」『日本語教育』110, pp. 130-139.

久野弓枝(2002)「地域日本語ボランティア教室の限界と可能性」『北海道大学大学院教育学研究科紀要』86, pp. 251-264.

鹿毛雅治(2004)「第1章 動機づけ研究へのいざない」上淵寿(編)『動機づけ研究の最前線』北大路書房 pp. 1-28.

小柳かおる(2004)「第10章 学習者の情意的要因とSLA」『日本語教師のための新しい言語習

- 得概論』スリーエ ネットワーク p. 179.
- 楠山研(2005)「中国における大学入試改革の動向：地方・大学への権限委譲に関する一考察」『京都大学大学院教育学研究科紀要』51, pp. 128-141.
- 近藤博之(2005)「親の所得と大学教育機会：関連の強さと変化に関する検証」『大阪大学教育学年報』10, pp. 1-16.
- 黄福涛(2005)「はしがき」『1990年代以降の中国高等教育の改革と課題 高等教育研究叢書』81, 広島大学高等教育研究開発センター pp:1-2.
- 郭俊海・全京姫(2006)「中国人大学生の日本語学習の動機づけについて」『新潟大学国際センタ一紀要』2, pp. 118-128.
- 木下康仁(2007)『ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ』弘文堂
- 国際交流基金(2008)『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査・2006年 概要』
<<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/2006-8.pdf>> (2018年4月12日)
- Kikuchi, K., & Sakai, H. (2009). Japanese learners' demotivation to study English: A survey study. *Journal of the Japan Association for Language Teaching*, 31(2), 183-204.
- Kim, K. J. (2009). Demotivating factors in secondary English education. *English Teaching*, 64(4), 249-267.
- Kikuchi, K. (2009). Listening to our learners' voices: what demotivates Japanese high school students? *Language Teaching*, 13(4), 453-471.
- 国際交流基金(2011)『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査・2009年 概要』独立行政法人国際交流基金
- 国際交流基金(2013)『海外の日本語教育の現状 2012年度日本語教育機関調査より』くろしお出版
- 鹿毛雅治(2013)『学習意欲の理論 動機づけの教育心理学』金子書房
- Krishnan, K. S. D., & Pathan, Z. H. (2013). Investigating demotivation in learning English: An extension to Sakai and Kikuchi's (2009) framework. *Advances in Language and Literary Studies*, 4(2), 124-131.
- 菊地恵太(2015)『英語学習動機の減退要因の探求 -日本人学習者の調査を中心に-』ひつじ書房
- 小林明子・千葉朋美(2017)「中国の大学で学ぶ日本語学習者の動機づけに関する研究」『JALT日本語教育論集』14, pp. 1-29.
- 国際交流基金(2017a)「日本語教育 国・地域別情報 日本語教育の実施状況 全体的状況」
<<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2017/china.html>> (2018年4月11日検索)
- 国際交流基金(2017b)『海外の日本語教育の現状 2015年度日本語教育機関調査より』

- <http://www.jpjf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2015/all.pdf> (2017 年 12 月 7 日 検索)
- 許晴 (2018a) 「中国における日本語主専攻学習者の出身地と動機減退の関連」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』26, pp. 73-90.
- 許晴 (2018b) 「中国における日本語専攻学習者の専攻の振り分けによる動機減退要因の比較」『日本語教育』169, pp. 46-61.
- 李受香 (2003) 「第 2 言語および外国語としての日本語学習者における動機づけの比較 - 韓国人日本語学習者を対象として -」『世界の日本語教育』13, pp. 75-92.
- 卢建飞 (2005) 「我国高等教育区域发展不平衡性问题分析」『理工高教研究』24(4), pp. 13-15.
- 李炳煌 (2006b) 「大学生学习动机与学习适应关系研究」『煤炭高等教育』3, pp. 105-107.
- 李剑萍 (2006) 「中国高等教育数量增长与质量控制」『河北师范大学学报 (教育科学版)』8(1), pp. 5-10.
- 刘贵山 (2008) 「1949 年以来中国户籍制度演变述评」『天津行政学院学报』10(1), pp. 37-41.
- 刘尧 (2009) 「中国高等教育发展历史述评」『南阳师范学院学报 (社会科学版)』18(2), pp. 106-110.
- 李春玲 (2010) 「高等教育扩张与教育机会不平等 - 高校扩招的平等化效应考察 -」『社会学研究』3, pp. 82-113.
- 冷丽敏 (2011) 「关于高等学校外语教学理念的研究与探索 - 以高等院校日语专业基础阶段教学大纲为对象 -」『日语学习与研究』153(2), pp. 99-106.
- 刘希伟 (2011) 「“高考户籍制”的历史镜像, 现实困境与反思」『国家行政学院学报』11, pp. 57-61.
- 林艳华・张沈香・杨艳萍 (2011) 「关于日语专业学生日语学习动机的类型化研究」『中南林业科技大学学报』5(3), pp. 149-151.
- 刘振滨・郑逸芳・刘淑兰 (2013) 「论公平视角下高等教育资源的合理配置」『高等农业教育』269(11), pp. 15-19.
- 刘华军・张权・杨骞 (2013) 「中国高等教育资源空间分布的非均衡与极化研究」『教育发展研究』9, pp. 1-7.
- Li, L., & Zhou, C. (2013). Different faces of demotivation: A comparative study on Chinese and Korean college EFL learners' demotivators. *Journal of Applied Sciences*, 13(6), 800-809.
- Liu, H. G. (2014). Research on junior high school students' English learning demotivations: Evidence from middle and western China M. Guangzhou: World Publishing House.
- 刘精明 (2014) 「能力与出身: 高等教育入学机会分配的机制分析」『中国社会科学』224(8), pp. 109-128.
- 李立国 (2014) 「中国高等教育大众化发展模式的转变」『清华大学教育研究』35(1), pp. 17-27.

- 村山詩帆(2007)「大学教育機関の地域間格差の再検討 -進学移動の構造と過程に照準して-」『大学教育年報』3, pp. 62-74.
- 毛賀力・福田倫子(2010)「中国における日本語専攻大学生及び日本における中国語専攻学習者の動機づけの比較」『言語と文化』23, pp. 209-232.
- 盛山和夫(2011)「階層的な不平等研究の最近の動向と課題」『海外社会保障研究』177, pp. 52-64.
- Meshkat, M., & Hassani, M. (2012). Demotivating factors in learning English: The case of Iran. *Procedia-Social and Behavioral Sciences*, 31, 745-749.
- Mahbudi, A., & Hosseini, A. (2014). An analysis of demotivating factors among ethnic minorities: A case study of Turk language learners. *International Journal of Language Learning and Applied Linguistics World*, 6(1), 119-135.
- 馬宇航・楊東平(2015)「城乡学生高等教育机会不平等的渐变轨迹与路径分析」『清华大学教育研究』36(2), pp. 7-13.
- 縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩(1995)「大学生の日本語学習動機に関する国際調査 -ニュージーランドの場合-」『日本語教育』86, pp. 162-172.
- 成田高宏(1998)「日本語学習動機と成績の関係 -タイの大学生の場合-」『世界の日本語教育』8, 国際交流基金日本語国際センター pp. 1-11.
- 中田賀之・木村裕三・八島智子(2003)「英語学習における動機付け：多様なアプローチに向けて」『関西紀要』7, pp. 1-20.
- 南部広孝(2005)「新入生募集制度改革」黄福涛(編)『1990年代以降の中国高等教育の改革と課題』(高等教育研究叢書)81, 広島大学高等教育研究開発センター pp. 89-97.
- 中井好男(2009)「中国人就学生の学習動機づけの変化のプロセスとそれにかかわる要因」『阪大日本語研究』21, pp. 151-181.
- 中澤渉(2011)「高等教育進学機会の地域間不平等」『東洋大学社会学部紀要』48(2), pp. 5-18.
- 中田賀之(2011)「第6章 学習者要因」佐野富士子・岡秀夫・遊佐典昭・金子朝子(編)『英語教育学大系第五巻 第二言語習得 -SLA 研究と外国語教育-』大修館書店 p. 197.
- 南部広孝・渡辺雅幸(2012)「インドと中国における大学入学者選抜制度：現状と改革動向の比較的分析」『京都大学大学院教育学研究科紀要』58, pp. 19-43.
- Oxford, R. L. (1998). The unravelling tapestry: Teacher and course characteristics associated with demotivation in the language classroom Demotivation in foreign language learning. In Unpublished paper presented at the TESOL '98 Congress, Seattle, WA.
- 岡崎智己・清水百合・小山悟(2000)「中国における学習者と教師の日本語学習に対する意識の相違」『日本語教育方法研究会誌』7(1), pp. 2-3.

- 王婉瑩(2005a)「日本語学科における日本語学習者の動機づけについて -中国の総合大学の場合-」『国文白百合』36, pp. 75-85.
- 小川佳万・小野寺香(2016)「中国高級中学の教育課程にみる多様化策 -江蘇省の大学入試改革との関連に注目して-」『広島大学大学院教育学研究科紀要』65, pp. 11-18.
- 岡葉子(2017)「日本語教育学における「学習動機」の概念について -motivation の訳語をめぐる問題-」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』43, pp. 19-32.
- 彭賢・陳礼灶(2014)「从 985 和 211 大学的区域分布看我国高等教育的公平性」『煤炭高等教育』32(3), pp. 22-25.
- 乔锦忠(2008)「高等教育入学机会的城乡差异」『教育学报』5, pp. 92-96.
- 秦志军(2013)「浙江专业学生日语学习动机和成绩之间的关系」『中国校外教育 下旬刊』6, pp. 74-75.
- Ryan,R.M.,&Deci,E.L.(2000). Intrinsic and extrinsic motivateons:Classic definitions and new directions. *Contemporary educational psychology*, 25(1), 54-67.
- Rajabi, B., & Pozveh, S. M. H. (2016). A Quantitative Analysis of Demotivating Factors for Iranian Intermediate High School EFL Learners. *Mediterranean Journal of Social Sciences*, 7(5), 124.
- 任远(2016)「中国户籍制度改革:现实困境和机制重构」『南京社会科学』8, pp. 46-53.
- 潮木守一(1983)「学歴の社会学 -その理論的検討-」『教育社会学研究』38, pp. 5-14.
- Staton, A. Q. (1989). The interface of communication and instruction: Conceptual considerations and programmatic manifestations. *Communication Education*, 38, 364-371.
- 宿久高(2003)「中国日语教育の現状と未来 -兼談专业日语教学大纲的制定与实施-」『日語学習与研究』113(2), pp. 50-53.
- 沈百福(2004)「义务教育投入の城乡差异分析」『教育科学』20(3), pp. 23-26.
- 佐々木洋成(2006)「教育機会の地域間格差」『教育社会学研究』78, pp. 303-320.
- 修剛(2006)「中国における大学日本語専攻の現状と問題点」『2006 清華大学日本言語文化国際フォーラム』パネルディスカッション資料
- 住岡英毅(2007)「教育の地域格差に挑む <特集>「格差」に挑む」『教育社会学研究』80, pp. 127-141.
- 史浩然(2008)「论户籍制度与教育公平」『现代商贸工业』7, pp. 152-153.
- Sakai, H., & Kikuchi, K. (2009). An analysis of demotivators in the EFL classroom. *System*, 37(1), 57-69.
- 志水宏吉(2009)「学力の地域格差(教育格差の発生・解消に関する調査研究報告書) - (分析編)」『研究所報 ベネッセコーポレーション』52, pp. 50-63.
- 瀬尾匡輝(2011)「香港の日本語生涯学習者の動機づけの変化 -修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析から-」『日本学刊』14, pp. 16-39.

- 白井恭弘（2011）「第1章 総論 SLA 研究とは何か」佐野富士子・岡秀夫・遊佐典昭・金子朝子(編)『英語教育学大系第五巻 第二言語習得-SLA 研究と外国語教育』大修館書店 p. 18.
- 瀬尾匡輝・陳徳奇・司徒棟威（2012）「なぜ日本語学習をやめてしまったのか -香港社会人教育機関の学習者における動機減退要因の一事例-」『日本学刊』15, pp. 81-95.
- 宋争辉（2012）「中国优质高等教育资源区域分布非均衡化的历史演变与现实思考」『高等教育研究』33(5), pp. 22-28.
- 孫成志・藤井翔太・石川真由美（2013）「海外大学の中国高校卒業生リクルート戦略：中国大学統一入学試験「高考」成績の活用をめぐる」『多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集』17, pp. 3-17.
- Sahragard, R., & Ansaripour, E. (2014). Demotivating and remotivating factors among MA students of TEFL: An Iranian case. *International Journal of Society, Culture & Language*, 2(1), 88-105.
- 上海某大学教学一览 2016 <http://jwzx.shou.edu.cn/zhjw/kczx2/2016/docs/2016_8_wyxy.pdf> (2018 年 4 月 17 日検索)
- Song, B., & Kim, T.Y. (2017). The dynamics of demotivation and the remotivation among Korean high school EFL students. *System*, 65, 90-103.
- Tsuchiya, M. (2004a). Nihonjin daigakuseino eigogakushuuheno demotivation (Japanese university students' demotivation to study English). *The Chugoku Academic Society of English Language Education Kenkyukiyo*, 34, 57-66.
- Tsuchiya, M. (2004b). Factors in demotivation concerning learning English: A preliminary study of Japanese university students. *The Kyushu Academic Society of English Language Education*, 32, 39-46.
- Tsuchiya, M. (2006a). Factors in demotivation of lower proficiency English learners at college. *The Kyushu Academic Society of English Language Education*, 34, 87-96.
- Tsuchiya, M. (2006b). Profiling of lower achievement English learners at college in terms of demotivating factors. *Annual Review of English Language Education in Japan*, 17, 171-180.
- Trang, T. T. T., & Baldauf Jr, R. B. (2007). Demotivation: Understanding resistance to English language learning-the case of Vietnamese students. *The journal of Asia TEFL*, 4(1), 79-105.
- 東曉・鄧紅（2011）「中国の大学入試制度の問題点とその改善策」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』48, pp. 91-100.
- 上山浩次郎（2011）「大学進学率の都道府県間格差の要因構造とその変容 -多母集団パス解析による4時点比較-」『教育社会学研究』88, pp. 207-227.
- 上山浩次郎（2012）「高等教育進学率における地域間格差の再検証」『現代社会学研究』25, pp. 21-36.

- 上淵寿 (2013) 『キーワード 動機づけ心理学』 金子書房
- 上淵寿 (2004) 『動機づけ研究の最前線』 北大路書房
- Weiner, B (1972). Theories of motivation : From mechanism to cognition. Oxford, England:Markham.
- Weiner, B (1979). A theory of motivation for some classroom experiences. *Educational psychology*, 71, 3-25.
- 王婉莹 (2005b) 「大学非专业学生日语学习动机类型与动机强度的定量研究」 『日语学习与研究』 122(3), pp. 38-46.
- 王伟宜 (2013) 「高等教育入学机会获得的阶层差异分析 -基于 1982-2010 年我国 16 所高校的实证调查-」 『高等教育研究』 34(12), pp. 35-44.
- 王善迈・袁连生・田志磊・张雪 (2013) 「我国各省份教育发展水平比较分析」 『教育研究』 6, pp. 29-41.
- 王一涵 (2014a) 「中国区域经济发展差异及其原因的多尺度分析」 『中国市场』 42, pp. 13-14.
- 王伟宜・吴雪 (2014) 「高等教育入学机会获得的城乡差异分析 -基于 1982-2010 年我国 16 所高校的实证调查-」 『复旦教育论坛』 12(6), pp. 77-82.
- 王瑜・仝志辉 (2016) 「中国户籍制度及改革现状」 『中国农业大学学报 (社会科学版)』 33(1), pp. 100-108.
- 王峰 (2014b) 「试述我国户籍制度的改革与发展」 『河南社会科学』 22(11), pp. 48-51.
- 修刚 (2008) 「中国高等学校日语教育的现状与展望 -以专业日语教学为中心-」 『日语学习与研究』 138(5), pp. 1-5.
- 徐永 (2013) 「区域高等教育非均衡发展的形成机制及检视: 一个“国家行动”的解释框架」 『教育发展研究』 (19), pp. 18-25.
- 修刚 (2018) 「新时代中国专业日语教育的转型与发展」 『日语学习与研究』 194(1), pp. 75-79.
- 于飛 (2012) 「中国における日本語教育の現状 -日本語学習者に対する意識調査-」 『神奈川大学大学院言語と文化論集』 18, pp. 83-126.
- 杨豪杰 (2012) 「日语学习动机与学业成绩自我评价的关系」 『宁波工程学院学报』 24(4), pp. 123-128.
- 易晓明・李斌洲・付和平・雷志术・何宏英・俞丽莉・胡余军・朱丽 (2002) 「学习优秀与学习不良大学生的学习动机, 自我效能和归因比较」 『健康心理学杂志』 10(1), pp. 1-3.
- Yadav, M., & BaniAta, H. (2013). Factorizing demotivation, finding motivation: A constructive approach to quality enhancement. *Procedia-Social and Behavioral Sciences*, 70, 120-130.
- 袁莉萍 (2014) 「中国の大学における日本語教育の現状: 中国南東部の一国立大学を事例に」 『愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告』 10, pp. 81-93.
- 杨江华 (2014) 「我国高等教育入学机会的区域差异及其变迁」 『高等教育研究』 35(12), pp. 27-34.
- 杨豪杰 (2016) 「日语专业大学生学习动机减退原因探析」 『浙江外国语学院学报』 5, pp. 21-26.

- 张乐天 (2004) 「城乡教育差别的制度归因与缩小差別的政策建议」『南京师大学报社会科学版』3, pp. 71-75.
- 张俊 (2012) 「我国的行政区划」『地理教育 7-8 期』 p. 39.
- 周慈波 (2012) 「中日大学外语学习者负动机影响因子对比」『宁波大学学报 (人文科学版)』25(3), pp. 51-55.
- 张蕾・王桂新 (2013) 「中国户籍制度与城市化进程」『浙江理工大学学报』30(2), pp. 274-279.
- 张丽梅 (2014) 「关于大学日语专业教育学情调查报告 以日语“学习意识”为中心」『东北亚语外语研究』4(1), pp. 27-32.
- 张丽梅 (2016) 「日语专业学习者学习情感调查报告 - 基于上游组与下游组的差异比较-」『日语学习与研究』185(4), pp:95-102.
- 中国统计年鉴 (2017a) 一、综合 1-1 全国行政区划
 <<http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/2017/indexch.htm>> (2018 年 5 月 23 日検索)
- 中国统计年鉴 (2017b) 二十一、教育 <<http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/2017/indexch.htm>> (2018 年 11 月 6 日検索)
- 中国地图大全 (2018) 江西省地图 <<http://blog.livedoor.jp/chinamaps/archives/51576956.html>> (2018 年 5 月 23 日検索)
- 中华人民共和国行政区划 (2018) 中华人民共和国行政区划
 <http://www.gov.cn/guoqing/2005-06/15/content_2615217.htm> (5/23 検索)
- 中国の行政区分 (2018) 中国基礎知識 中国の行政区分 地図 <
<http://pengzi.maruzen.com/china/gyosei.htm>> (5/23 検索)
- 中国国家统计局 (2018) 统计制度及分类标准 (12)
 <http://www.stats.gov.cn/tjzs/cjwtjd/201308/t20130829_74318.html> (2018 年 5 月 23 日検索)
- 中华人民共和国教育部 (2018a) 211 工程院校名单
 <http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s238/201002/xxgk_82762.html> (2018 年 5 月 23 日検索)
- 中华人民共和国教育部 (2018b) 985 工程院校名单
 <http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s6183/201112/xxgk_128833.html>
 (2018 年 5 月 23 日検索)

* 本研究の研究背景と先行研究の一部は、許晴 (2018a) 「中国における日本語専攻学習者の出身地と動機減退の関連」(『国際広報メディア・観光学ジャーナル』26, pp. 73-90.) と許晴 (2018b) 「中国における日本語専攻学習者の専攻の振り分けによる動機減退要因の比較」(『日本語教育』

169, pp. 46-61.) を加筆修正したものである。

第 6 章(研究 2)は許晴 (2018a)「中国における日本語主専攻学習者の出身地と動機減退の関連」(『国際広報メディア・観光学ジャーナル』 26, pp. 73-90.) を加筆修正したものである。

第 7 章(研究 3)は許晴 (2018b)「中国における日本語専攻学習者の専攻の振り分けによる動機減退要因の比較」(『日本語教育』 169, pp. 46-61.) を加筆修正したものである。